

カレー

フォト劇場 (51)

写真が生まれるものがたり

空き腹にカレーの香り流れきぬ学校帰りの遠かり
し道
大野真智子

小学校の通学に四十分位かかった。お昼に下校の時など、道沿いの家からカレーの香りがすることがあった。食欲をそそるあの独特の香りに一層空腹感が増し、家路は一段と遠くなつたような気がした。

晩酌のない月曜はカレーの日飲まぬ日の父さびしげなりき
尾崎潤子

生前の父は退職後、母に言われてしぶしぶ週に一日だけ休肝日を作った。週末は私たちと会食し盛大に飲むので月曜はカレーライスのみ。父はカレーが好きではあったが、やはりどこか寂しそだったことを今も思い出す。

写真・木畑紀子



別仕立ての父のカレーは濃き色で滝の汗噴き食べ
しよ父は
野田聡子

学食はいつもカレーと出汁の匂いがした。貧乏学生の腹を満たすべく安価なカレーとうどんはいつ行ってもあった。食べながら喋り、喋りながら食べた。今時の学食はお洒落だと聞く。昭和は遠い時代になってしまった。

悲しいとき甘口辛口どちらでもいいから我をなく
さめてくれ
桑原 博

カレーには甘口と辛口がある。悲しいときには、お前何泣いてんねんとか、大丈夫？とか話しかけてほしい。一人では堪えられそうにないときはとくに。どちらかと言うと、僕は甘口の言葉がいい。